

国立国語研究所学術情報リポジトリ

愛知県小牧市藤島方言

著者	国立国語研究所
ページ	1-30
発行年	1968-11
シリーズ	方言録音資料シリーズ ; 10
URL	http://doi.org/10.15084/00003030

方言録音資料シリーズ—10

愛知県小牧市藤島方言

国立国語研究所編

1 9 6 8

このテキストは，方言研究用の資料として作られたものである。方言の録音方法，方言の表記の方法などのあらましについては，別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成は，国立国語研究所話しことば研究室のもとめに応じて山田達也（名古屋市立大学助教授，国立国語研究所地方研究員）がおこなった。

も く じ

収録地点とその方言について..... 2

表記について 3

本 文

1. 昔 と い ま 5

2. 昔 の 祭 り 24

注 29

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：愛知県小牧市藤島

2. 収録地点の概観

もと西春日郡北里村に属し、名古屋の中心より北方約10km，米麦を中心とした尾張部の平均的な農村部落。名古屋から名古屋鉄道犬山線で約30分，岩倉下車，東南へ歩いて30分。昭和38年に編入された小牧市の中心へは歩いて40～50分。交通の便が比較的悪く，純農村の面影が濃かったが，最近では近くに団地，工場等が出来，ようやく都市化の波が押寄せつつある。

3. 収録した方言の特色

藤島方言については，国立国語研究所「日本方言の記述的研究」のなかの野村正良氏の「愛知県西春日井郡北里村」に全般的な記述がある。収録した部分についていえば，最大の特徴は，〔æ，oe，y〕で表記した変母音であるが，その他文法事項としては *naqtemau*（なってしまう：完了），*sjonise:seN*（本当にしない：打消），*iki(j)oru*（行きつつある：進行），*(iki(j)o- qta*（行ったものだ：回想），*jaqtoru*（やっている：状態），*jaqtoraqseru*，*jaqtorasita*（やっておられる，やっておられた：敬語）のような派生語関係，男子の使う，断定・意志等をやわらげる終助詞 *wa*，理由の接属詞 *de*（から）などが特に注目される。

4. 地点選定の理由

名古屋近郊の尾張地区農村の言葉として平均的なものであるというのが選定の理由である。

表 記 に つ い て

〔 指定の字母以外に使用した字母，および補助記号 〕

字母・補助記号 記号の種類	語 例	(標準語訳)
æ	h æ : (p. 6)	(無い)
oe	o oe : (p. 5)	(多い)
y	suqkokiniky: (p.22)	(梳きにくい)

1. 表記は音素的であるが，方言の特色あるものについては，きわめてブロードな音声的表記とした。
2. [æ :], [oe :], [y :] の三者は音素表記をせずにそのままとした。
3. [æ :] は [æ̃] [æ̂] とおもわれるものを含む。[oe :] は，これよりせまい [ø] を含む。
[y :] は [ỹ] のように二重母音的なものも含む。[oe :], [y :] とともに左右からのくちびるのせばめが少なく，それぞれ [ẽ], [ĩ] のような中舌音に近いばあいがある。
4. 文節ごとの分かち書きとしたが，二文節の融合したものは続けてしるした。
5. 聞き手となった山田達也 (編者，略号 Y) の発言は，主旨だけを「 」にいれて漢字かなまじり文でしるした。(実際は藤島方言で発話)

1. 昔 と い ま

録音日時 1967年8月28日

録音場所 愛知県小牧市大字藤島
字居屋敷 山田正子氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職 業)	(居 住 歴)
W	加藤 桑三郎	男	明治21年生	農 業	藤島のみ
M	加藤 桑三郎	〃	〃 23年生	〃	〃
Y	山田 達也 (編者)	〃	大正14年生	教 員	藤島1才~8才, 名古屋9才~

解説: 部落の編入のことから交通の便, 通学, 労働の話とうつり, 今年の稲の害, はまきのことに終わっているがこの間, 随所に今と昔の比較がされている。

なお, 会話はYが聞き役となってW, Mの話を聞くという形で進むが, 最後はWとMだけの対話となる。

W hora komakii cukuka nagojæ: cukukateja:
それは 小牧へ つくか 名古屋へ つくかと言えば,

nagojæ: cukuho:ða mirjoku... nagojanoho:ða
名古屋へ つくほうが 魅力……。 名古屋のほうが

mirjokuða oœ:dena
魅力が 多いでな。

M hæ: nagojæ: cukja suntō ano pasuo mazu
もう 名古屋へ つけば すぐと あの バスを まづ

tojojamademo moqtekurumondejo: komakidewa
豊山(の場合)でも もってくるのでねー。 小牧では

hubendawa
不便だ。

Y 「いま, そうするとどうやって行くんですか, 小牧は?」

M komaki zju:sanzukakara pasun aru dakede
小牧は 十三塚から バスが ある だけで,

mæ:de nanimo næ:de kan hubendawana
(ほかはなにも)無いで なにも 無いで いかん。不便だ。

W hora naŋojano:ŋa benrin arude
そりゃ 名古屋のほうが 便利が あるので。

M hn: sijakusjomaede orosujonnaqtoruwana
ふんん 市役所前で 降ろすようになっている、

zu:qto joqporo icizikan ano: hacizi kuziwa
ずうっと よほど、 1時間 あの 8時・ 9時は

sanbonduræ: arude icizikanni sanbonduræ:
3本ぐらい あるので、 1時間に 3本ぐらい

arukedo ma:
あるけれども、

W niqcu:wa iqponhoka næ: komakiikiwa hubenda-
日中は 1本しか 無い。小牧行きは 不便だ。

wana horeka: iwakura: mawaq…… iwakuræ:
それか 岩倉を まわって …… 岩倉え

mawaruni teman kakarusi
まわるに 手間が かかるし。

Y 「電車は無くなったと聞いたが。」

M densjaa no:naqtemaqtawana icinomi jamo
電車は 無くなってしまった。 一宮線も。

W densjawa toriaŋete
電車は 取上げて、

M ……… komakimo
小牧線も。

Y 「一宮もなくなってしまった?」

M e: pasun naqcjaqta sonoho:ŋa benridawa
ええ バスに なってしまった。 そのほうが 便利だ。

tokinasi: ano pasuwa dasudena saqsaq saq-
時間なしに あの バスは 出すのでな サッサッ サッ

saqto okjakuga arisidæ: dasude
サッと お客が あり次第に 出すので。

Y 「ああ そうですね。」

M e: ma: densja maqtoqte densjae kjakun kuru-
ええ もう 電車を 待っていて、 <電車へ>、 客が 来る

to cuqto noserusi jo: hora pasunoho:da zi-
と スーツ 乗せるし なあ。 そりゃ バスのほうが 自

juN jorosi:wa densjamicio hasirakasujo:ni
由が よろしい。 電車道を はしらせるように

mukasino densjamici minna pasudo:roni site-
昔の 電車道を 皆 バス道路に して

maqtade
しまったので。

W ma: doqcikato ju:to kawaqtakotowa ima:
もう どちらかと いうと 変わったことは、 いま

kocirada mukasibanasi seruto hazukasi:buræ:-
こちらが 昔話を すると 恥ずかしいぐらい

da (笑) jononakan naqtesimaqta keredomo
だ 世の中に なってしまった。 けれども

se:kacutositewa do:mo mukasino:da jutori-
生活としては どうも 昔のほうが ゆとり

da arujo:na kinaseru imawa ma: hontoni
が あるような 気がする。 いまは もう 本心に

tokæ:kasite kane kane kane kane (笑) kaneda
都会化して、 金、 金、 金、 金 金が

dæ:iciN naqtemaqtawa
第一に なってしまった。

Y 「人の気質も変わって来ますねえ。」

W e:e kawaqtawa na: ma: imawa kawaqtakoto
えええ 変った ねえ。 もう いまは 変わったことを

ucide hanæ:taqte kodomonora: sjo:ci (笑)
家で 話しても 子供達が 承知

honnakoton aqtakato ju:hu:ni sjo:cise:senwa
そんなことが あったと いうように 承知しない。

Y 「今学校はあれですか。皆やっぱり子供さん達そろって行くのですか？」

M ho:desu mæ:asa zju:sanzukamade:cu: ojan
そうです。 毎朝 十三塚まで 親が

okuridasuda ano: kurumaŋa oœ:de gaqko:
送り出す。 あのう 車が 多いので 学校……

zju:sanzukano jocucuzimade okuridæ:te hode
十三塚の 四辻まで 送り出して、 それで

aqcikara kuruma asokono jocucuzi abunæ:mon-
あちらから 車……, あそこの 四つ辻は あぶないの

de hutari:cu na: kawaribande mai-asa okuri-
で、 二人づつ ねえ 交替で 毎朝 送り

dasaNnaran
出さなければならん。

W e: horja: sono dancino danpuŋa mæ:asa nan-
ええ そりゃ その 団地の ダンプが 毎朝 何

bjakudæ:to toorumonde na: icincini jo: hode-
百台と 通るので ねえ 一日に ねえ。 それで

wa abunæ:deteqte cu:ŋakuro mo wazato cjoqto
は あぶないといって 通学路も わざと すこし

inamin tokoro: tooqte hode oqkasanda hutari:-
南のところを 通って、 それで 母親が 二人

cu goe:site ikijoqta
づつ 護衛して いきました。

M wasinoho:wa okaŋede mazu ano: hitorimo
わしのほうは おかげで まづ あのう 一人も

zikowa næ:de e: ariŋatæ:wana e: ma: niziq-
事故は 無いで ええ 有難い ええ。 まあ 20

cjo:mo ajobannarande eræ:wana gaqko:……
町も 歩るかなければならぬので 大変だ。 学校……

Y 「20町ありますかあれ。」

M ma: niziqcjo:wa aruwa na: kociran haqcjo:
まず 20町は ある なあ。 こちらが 8町

muko: zju:nicjo:to ijoqtan niziqcjo:wa næ:
 むこうが 12町と 言ったが 20町は 無い

ma: zju:haqcjo:
 まあ 18町……

W zju:haqcjo:ðuræ:……
 18町ぐらい……

M zju:haqcjo:ðuræ:wa aruwana: e:
 18町ぐらいは あるわなあ ええ。

Y 「何かしらないが子供の時遠いと思いましたが、わたしが一年生にあがったとき……子供の
 気持では速いと思いましたが……」

M hora to:œ:wana: imawa soroqte ikudade ci:-
 そりゃ 遠いわなあ。 いまは そろって 行くので 小

sæ: kodomo eræ:wa hasiqte ma: sionsankatano
 さい 子供は 大変だ、 走って。 もう しおんさん(人名)ところの

kodomowa jo: hasirizumedawa ci:sæ:de eræ:
 子供は 走りつづけた。 小さいから 大変な

koqtawa
 ことだ。

W hode jo:ciēnwa kitazatoni aqtemo jo:ikaNwa-
 それで 幼稚園は 北里(村名)に あっても 行くことが出来

na: sonono⁽¹⁾hœ:e iqtēsimaqte
 ん 曾野(部落名)のほうへ 行ってしまつてて。

M iwakuracjœe iqtēmaqta
 岩倉町へ 行ってしまった。

W sonono zinse:iinda……
 曾野の 神清院が

M oterade jaqtorude
 お寺で やっているの。

W watakusiricuno jo:ciēno jaqtorarēruwana
 私立の 幼稚園を やっておられる。

sokoe: minna iqcjauwa anmari tōœ: dena
 そこへ 皆 行ってしまう、 あまり 遠いので。

izure kode d'ancino ga dekiruto kono huzisi-
いづれ これで 団地の…… が 出来ると この 藤島

mano ho:men nimo hitocu dekirudaro keedomo
の 方面にも 一つ 出来るだろう けれども、

ima-gen zæ:wa so:ju: zjo:tæ:de
現在では そういう 状態で……

Y 「幼稚園なんか夢のようで、昔遊んでくれたものは蛇やギャーロで……。」

W manda wasi n tora: no zidæ:wa gaqko:tju:monno
未だ わし達の 時代は 学校というもの

hontoni mini cy:torande kakureasubi kakure-
本当に 身に ついておらんので、 かくれ遊び かくれ

asubite iqte na: bento: moqte uciwa deruke-
遊びと いうて 弁当を もって 家は 出るけ

redomo tocju:de kakurete
れども 途中で かくれて……

M ma: hucu: no monodewa sjo:ða qko: jonense:
まあ 普通の 子供では 小学校 4年生

ikunara hæ: sigoto sennaran sjo:ða qko nana-
いくなら はや 仕事を セならぬ。 小学校 七

cukara iqte ma: nanacuja jaqcude ikuda hode
つから いうて、 まあ 七つ 八つで いくだ。 それで

sjo:ða qko jonen: ikunara ucide sigoto bowa-
小学校 4年生 いくなら 家で 仕事 ぼわれて

rete mukasino okæ:kono ami andari jo: nawa
(いそがしいられて) 昔の おかいこの 綱 あんだり 縄

naqtarisen narananda
なったりしなければならなかった。

Y 「あの時分から同じところですか、学校の位置は。」

M ho:da sjo:ða qko:wa zju:sanzukani aqtadena
そうだ 小学校は 十三塚に あったで。

sorewa komakimura takimura misi ndento wasi-
それは 小牧村 滝村 巳新田と わし

noho:to ano aza icucuɖuræ:no sjo:ɖaɖko:ɖa
の方と あの 字 五つぐらいの 小学校が

asukoni dæ:bun o:ki: sjo:ɖaɖko:ɖa aqta
あそこ、 大分 大きい 小学校が あった

W hode ko:to:ɖaɖko:ɖa nisikasudæ:de miɖcu
それで 高等学校が 西春日井で 三つ

aqtawa na: hokubuni se:bu to:buteqte o:zo-
あった。 北部に 西部 東部といって 大曾

nekinzjomo nisikasudæ:daqtadara o:zonekin-
根近所も 西春日井だっただろう。 大曾根近

zjoɖa to:buteqte arewa sinkawani aqtandawa-
所が 東部といって あれは 新川に あったのだ。

na hode hokubuteqte muɖusini wasintora:
それで 北部といって 六ッ師に わし達が

ikijoqta tokoroɖa aqta ko:to:-gaɖkoteqtemo
行きおった ところが あった。 高等学校といっても

sono zibun ko:to:sjo:ɖaɖko: tiɖjoqtakedomo
その 時分 高等小学校 といったけれども

niriɖuræ: kakete kijoqtawa na: imano gakudo:wa
2里ぐらいの 範圍から 来たものだ。 いまの 学童は

sorja toæ: toæ:to ju:keedomo sono ko:to:-
それは 遠い 遠いと 言うけれども その 高等

ɖaɖko:wa nisikasudæ:ni miɖcudamondade toæ:-
学校は 西春日井に 三つだので 遠い

kotowa niriɖuræ: arijoqta hode wasintora:no
ことは 2里ぐらい ありゃった。 それで わし達の

zidæ:ni nakanono:toju:tokokara kijoqtakedojo:
時代に というところから 来たものだが、

sokono gakudo:-jananka warazi hæ:te kijoqta
そこの 学童やなんか わらじ はいて 来たものだ。

(笑) toæ:mondade na: warazjorimitæ: kirecja-
遠いものだだから なあ、 わらじみたい 切れてしまう

ude warazjo: hæ:te kijoqta amehurij ananka
うで、わらじを はいて 来たものだ。 雨降りやなにか

warajo hæ:te to:ko:sijoqtamonda
わらじを はいて 登校しよったものだ。

M ho:da sense:demo muranakakara kijorasitaga
そうだ、 先生でも 村中から こられたが

tekutekuto ajobide
テクテクと 歩きで……。

W ajondena: (笑) ……… ju: sense:ga muranakakara
歩いてなあ …(不明) という 先生が 村中から

kijorasitaga
これそれたが……。

M icirihanka niri: sense: mæ:asa ajonde osie-
1里半か 2里 先生 毎朝 歩いて 教え

ni konnaranaanda
に 来なきゃならなかった。

Y 「その時は名古屋へどうして行ったのですか？」

M enañojæ:datote ano koqkara acutazinsjamade
え 名古屋へだとて あの ここから 熱田神社まで

anta ajobibaqkade ikudakeda warazjo cukuq-
あんた、 歩きばかりで 行くだけだ。 わらじを 作って

toe:te warazi hæ:te ikimodori iqte nañojano
おいて、 わらじを はいて、 往復 行って 名古屋の

dæ:ko:basikara acudamade
大幸橋から 熱田まで……。

W hunen noqte
舟に のって。

M sorekara hune: horikawao hunede ikijoqta
それから 舟で 堀川を 舟で 行くのだった。

so: sansende horikawa (笑) sansende ikijoqta
そう 3銭で 堀川を 3銭で 行くのだった。

W hode ano acutano hiðasi nisi toricukijoqta
それで あの 熱田の 東 (いや) 西 とりつくのだった。

na: wasintora: iki joqta zibunwa nisen daqta-
わし達が 行った 時分は 2銭だった

kasira dæ:ko:basi jori maqto simodaqtawana
かしら、 大幸橋より もっと 下だったわな。

M ho:da ho:da nisen honde
そうだ そうだ、 2銭。 それで、

W nisenka sansende
2銭か、 3銭で。

M basjawa o:sukara acutamade gosen dadena
馬車は 大須から 熱田まで 5銭だから、

gosenwa eræ:deteqte minna hunede ano: sendo:-
5銭は 大変だといって 皆 舟で あのう 船頭

bunede na ano: iki joqta
舟で あのう 行ったものだ。

W atowa
あとは……

M ajonde anta
歩いて あんた、

W sikatan næ:de warazi:
しかたがないので わらじを、

M ikimodori mazu:
往復 まず、

W warazjori hæ:te cy:teki joqtawana wasintora:
わら草履を はいて ついていった。 わし達……

M rokurika hiciri ajonde tekutekuto icinciga-
6里か 7里 歩いて テクテクと 一日が

karide iki joqtawana naðojæ: ikunoni sorede
かりで 行ったものだ。 名古屋へ 行くのに、 それで、

imano sjo:næ:ðawa hasiða kore hasicinda
いまの 庄内川、 橋が、 これ 橋賃が

do: demoko: demo ikimodoride iqsenCu gorinCu
 どうしても 復きもどりで 1銭ずつ(いや) 5厘ずつ

dejoqtadena hode naŋojæ: iqte zeni cukaqte-
 だったので、 それで 名古屋へ 行って 銭 使って

maqtewa hasiN watarende (笑) gorinwa nokoe:-
 しまっては 橋が 渡れんので 5厘は 残して

tokana ikaN tijoqta sonoŋuræ: no zikidaqta
 おかな いかん といったものだ。そのぐらいの 時だった。

naŋojæ: iqtatote zenino cukæ: zeni nisen
 名古屋へ 行ったって 銭の、 小使銭に 2銭、

nisen moraŋuræ: no kotodaqta nisenka sansen
 2銭 もらうぐらいの ことだった、 2銭か 3銭。

Y 「1銭はすごい価値でしたでしょう。」

W e: e iqsenŋa to: tokaqtawa
 ええ 1銭が 尊とかった。

M mukasiwa kaNe: cu: o: to sitaru icirintoju:
 昔は 寛永通宝 と したる 1厘という

zenikara buŋkju: iciringomo: horekara nirin
 銭から 文久 1厘5毛 それから 2厘

tiju: daqta ame iqpon kaundemo anta ano:
 というだった。 飴 1本 買うでも あんた あのう

biwazimakara pi:hjara pi:hjarato ameo uri-
 批把島から ビーヒャラ ビーヒャラと 飴を 売り

nikite kide hecukete nobasiijoqtan iqpon
 にきて 木で へつけて のばした、 1本

ici icirincudaqtadena: e: kodomono josu.....
 1..... 1厘だったでなあ ええ 子供の (不明)

minna icirin uci: moræ: ni hasiqte sono
 皆 1厘 家へ もらいに 走って その

pi:hjara kawaŋnaran. (笑) sonnakoto ima:
 ビーヒャラ 買わんならん そんなこと いま

hanæ:tatote honman nareseN
話しても 本当に ならん。

W mukasiwa zeniga to:tokaqtawana:
昔は 銭が 尊とかった。

M ma: imawa kanemo dadakusada mada tæ:sjo:ni
もう いまは 金も そまつだ。 まだ 大正に

naqtekarada: anta: kom komeða: iqpjo: joen-
なってからだ あんた こ、 こめが 1俵 4円

haciziqseNðuræ:nomoNda iqpjo:ða joenHaciziq-
80銭ぐらいのものだ。 1俵が 4円80

sen sorede mæ:ða iqkanme goendade kome:
銭。 それで まゆが 1貫目 5円だから 米を

jarujo:nakoqtekan okæ:ko toranakanteqte
やをようなことではいかん、 かいこを とらないかんといって

iqsjo:kenme: kokora:wa jo:zan dokoni naqta-
一生けんめい ここらは 養蚕所に なった

mondesu
ものです。

W ho:da takæ: tokiwa mæ: iqkanmeto kome iqpjo:-
そうだ、 高い 時は まゆ 1貫と 米 1俵

to
と (不明)

M komejoka mæ: iqkanmenon takakaqtakoton aru
米よりか まゆ 1貫目のほうが 高かったことが ある

W hode tanbozju: hatatoju: hata kuwabatan
それで 田んぼ中 畑という 畑 桑畑に

naqcimaqtawa na:
なってしまった。

Y 「小さい時おばあさんがこの辺でかいこをかっていたような気がするが……。」

M kaqtorasita
かっていた。

W kaqtoraita
かっていた。

W ma: okæ:kowa dokodemo oran tokoro næ:jo:ni
もう かいこは どこでも いない ところ ないように

orijoqta hode okæ:kono sakaridatiju:to mo:
おった それで かいこの 盛りだということ もう

kuu tokoroda nakarijoqtawa na: zenbu ucin-
食う ところ なかった なあ。 全部 家の

naka medæ⁽²⁾ tatetemaqta horja zju:ro:do:
中に め台を たててしまった。 そりゃ 重労働と

iqtemo hjakusjo:wa hjakusjo:wa zju:ro:do:ni
いっても 百姓は、 百姓は 重労働に

naretoruda okæ:koduræ: eræ:kotowa nakaqta-
慣れているが かいこほど 大変なことは なかった。

wa na: jo:sarimade jaranNaran joðuwa⁽³⁾ hokoe
夜まで やらなければならん。 夜桑、 そこえ

hitokuwa⁽⁴⁾ cukuraNaran joqpro: nacuno iqsjo:-
ひと桑を つくらなければならん。 よほど 夏の 一生

kenme: jaqtemo zju:icizika zju:nizimade
けんめい やっても 11時か 12時にまで

narijoqtawa na: hode hjæ: asawa mata kuwao
なったものだ。 それで もう 朝は また 桑を

karini okiNnaran okæ:kono jonre: gore:ti-
どりに 起きんならん。 かいこの 4 齢 5 齢と

juudaqtakedo sono zibunno mo: erasatiju:ko-
いうだけだけれど、 その 時分の もう 大変だということ

towa imakara miruto jumemitæ:na jo: karada-
とは 今から みると 夢のようだ。 よく 体

da cuzy:tana:to omo:puræ: jaqtawa na: (笑)
が つづいたと 思うほど やった

gimingamande asokoda goziqkan toraqseru
むりに我慢して、 あそこが 50貫 取る

kokoda rokuzikan toraqserutoju:de maikenkin
ここが 60貫 取るというので 負けん気に

naqte iqsjo:kenme: jaqtandakedo imakara
なって 一生けんめい やったんだけど いまから

omo:to jumemitæ:nakotoda honnakoto musu……
思うと 夢みたいなことだ。 そんなこと むす……,

kodomontara:ni hanæ:temo sjonise:senwana
子供達に 話しても 本気にせん。

M toræ::kotoo jaqtorasitamonda teqtoruburæ:no
阿呆なことを やっていたものだ と いっとるぐらいの

kotode
ことで

Y 「小さい時桑の実を食うのがうれしかったが、……いまは桑なんか全然ない、もう？」

W ho:da ma: no:naqtana:
そうだ。 もう なくなったなあ。

M ma: kono murawa no:naqta na: ma: kono hen-
もう この 村は 無くなったなあ、 もう この 辺

wa nisikasugæ:wa ma: hotondo kuwabatawa
は、 西春日井は もう ほとんど 桑畑は

næ:na ma: niwadun ikja mada johodo arudana
無い。 丹羽郡へ いけば まだ よほど あるな。

e: ko:nansiwa okæ:koo manda johodo kaqtoru-
ええ 江南市は かいこを まだ よほど 飼って

wana
る。

W cikaoro mata okæ:kono sæ:sanŋa i:rasi:wana
近頃 また かいこの 採算が いいらしい。

M totemo itoŋa takanaqtadena
とても 糸が 高くなったので。

Y 「やり方も全部かわってきちうでわねえ。」

W e:e mukasikara miruto odæ:mjo:ŋurasidakedomo
えええ 昔から みると お大名暮らしだけど、

soreso:to omoeseNða imanomonowa oðorin
そうと 思わないが。 いまの者は おごりに

naretorudejo: cjoqtomo nanðiti ju:kotoo
慣れとるので、 少しも 困難ということを

sirasuto sodaqtekitorumonde mukasi: senso:-
知らずに 育ってきているので。 昔、 戦争

kara sjokurjo:no sukunakaqta zidæ:kara
から 食糧の 少なかった 時代から

miruto jumemitæ:na o:samaðurasidawa na:
みると 夢みたいな 王様暮しだ。

M so:da ojano zæ:san uqte minna nanðekade
そうだ。 親の 財産 売って 皆 いろいろと

kakarumondena⁽⁵⁾ (笑) minna: ano: zi: uqte
かかるのでな 皆 あのう 地を 売って

husin jaqtari nanðeka cukurudakedomo muka-
普請 やったり いろいろ 作るけれども、 昔

sino monwa hitosedemo se:dæ:te jaqte hito-
の 者は 1畝でも せいでして やって 1

sedemo kaqtokitæ: kaqtokitæ:to ju: imawa
畝でも 買っておきたい、 買っておきたいと いう。 いまは

hantæ:dawa a: hjakusjo:wa o:ze joke aruto
反対だ。 ああ 百姓は 大勢、 よけい があると

kusan haerude domunaran ma: are uqte icimæ:
草が はえるから いやだ、 まあ あれ 売って、 1枚

uqte jarja: zæ:kinða derude sorejoka ucide-
売って やれば、 税金が 出るから それより 家で

mo cukurana kan nanzo kawana kante (笑) a:
も 作らないと いかん、 何か 買わな いかんて、 ああ

do:ðu dekasu minna so:juhu:N naqtemaqtawana
道具 作る、 皆 そういうふうに なってしまった。

Y 「しまいにはこの辺どういふうになるだろう？」

W do: naru siranna: ma: (笑) mukasiwa denzio
 どう なる しらんなあ もう 昔は 田地を

urucju:to nandaka siran asokoda denzi uraq-
 売るといふと なにか しらん あそこが 田地を 売る

seruena teqte cjoqto hazukasi: duræ: daqta
 そうだ といって すこし 恥ずかしいくらいだった。

ma: imawa he:kide denzi uqta zjenide se:ka-
 もう いまは 平気で 田地を 売った 銭で 生活

cusiteku (笑)
 をしていく。

M sorja mukasiwa hitosedemo e: kaqte kaqteq
 そりゃ 昔は 1畝でも いい、買って、 買って

teqtejo: ano: jaqtamondan ma: kodomo so:
 てって あのう やったものだが。 もう 子供が そう

ju:de ojanomori sedemo e: joni narutoju:-
 うで、 「親の 守りを せんでも よい 世に なる」という

jo:na hakuzjo:na tokini naqtekitamondade na:
 ような 薄情な 時に なってきたので なあ、

ojamo ma: soreðani seru hicujo:mo no:naqte-
 親も もう それだけ する 必要も 無くなって

kita mada hondemo inakadewa johodo honna
 きた。 まだ それでも 田舎では よほど そんな

oja sutetarujo:na monowa sukunæ: jononakada-
 親を 捨ててやるような 者は 少ない 世中だ。

wa na: soredemo minna kjo:bino musumewa a:
 それでも 皆 いまごろの 娘は ああ

W babanukitojara (笑)
 ばば抜きとやら

siso:ða kawaqtekitawa na:
 思想が 変って来たなあ。

M joda kawaqtekitade
 世が 変ってきたので。

M kodomono hutarisan^Nni aruto a: koredewa
子供の 二人三人 あると ああ これでは

eræ: tewan^Nnara^N sorja oba:sanni jaqkæ:
もたん といわんならん。 そりゃ おばあさんに 面倒を

bucuketokerukedomo⁽⁶⁾ so:ju: wakeni ikanwa na:
ぶつけておけるけど そういう わけに いかん。

Y 「米やなにか 昔よりよけい取れるようになったですか？」

M komekana so: mukasiwa sorja koeo jo: sena^N-
米かな。 そう 昔は そりゃ 肥を すること

dadena koewa
が出来なかったでな。肥は……

W koeo sena^Ndade gæ:cju:toju:monoo cjoqtomo
肥を しなかったで、 害虫というものを すこしも

sjo:dokutoju:kotoo sirana^Ndade ta^Nbode
消毒ということを 知らなかったで 田んぼで

musiqkerani kuwareqcjaijoqta
虫けらに 食われてしまった。

M kjo:biwa hora ma: sjo:dokumo jarusina: ma:
いまは そりゃ まあ 消毒も やるし、 まあ

ano: ko:sakuwa a^Nmari jarademo hora mukasi-
あのう 耕作は あまり やらなくても そりゃ 昔

duræ:wa jok jokawa joke toreruwana
ぐらいは よ、 よりは よけいに 取れる。

Y 「だんだん手間を省いては……」

W e: tema^o hab^yite tasan^{no} hode ko:sakutoju:ko-
ええ 手間を 省いて 多産の、 それで 耕作というこ

too dæ:nini site sjo:dokuo dæiicini sikake-
とを 第二に して 消毒を 第二に し始

tawana: mata hoda nakerana toren^{mo}ndena
めた。 また そうで ないと とれないのでな。

ko:saku: motowa nihe^{nmo} kuwa ireqte horeka-
耕作は 昔は 2度も 鍬を 入れて それか

ra ta:suri tanokusano ni hencumo jaqte go-
 ら 田すり 田の草とりの 2へんも やって 5,

goroqpenču aruki joqta ma imadewa iqpenhoka
 5, 6ぺん (田の中を)歩いた。 もう いまでは 1ぺんしか

arukehen (笑) hodemo keqko: torerundadena
 歩かん。 それでも 結構 とれるのでな

sjo:dokusæ: sitokisæ:sureba
 消毒さえ しておきさえすれば。

M mukasiwa tanokusa tejoqta ima kusuride
 昔は 田の草とり といっておった いまは 薬で

sjuqsjuqto ma kusano haen kusurio makudake-
 シュッシュッと 草の 生えん 薬を まくだけで(いい)

de hiedakewa hondemo karendekanwana donna
 ひえ草だけは それでも 枯れんわ。 どんな

bujobujono hiedemo hiedakewa cuoe:dekan
 やわらかい ひえ草でも、 ひえ草だけは 強いからいかん。

tanokusa
 田の草とり……

W kotosiwa hamaki ga oœ:na
 今年は はまきが 多いな

*(補注) ** (補注)
 M hamaki orangatade cokoqto suede koetoqtara
 はまき おれのところでは すこし すえで 肥えていたら

mo: hiqpaqtemaqta
 もう 引張ってしまった。

W hiqpatemaqta
 引張ってしまった……

M aqcikoqcito
 あちらこちらと。

W ci:to toqtemisuto omoqte torinikakaqtara
 すこし 取ってみようと 思って とりかけたら

tega cukande œ:cimaqta
 手が つかんで やめてしまった。

M mukasi maŋɔade⁽⁷⁾ suqkoki oqtaɔa na:
昔 まんがで すいたが なあ。

W ora: aŋo: warasuɔuri⁽⁸⁾ moqteqte na: suqkoe:—
おれは あのう わらすぐりを もって行って なあ すく

taruto hæ: nisja:ni naqtorude ije: zu:qto
と もう さなぎに なっているの で 上へ ずっと

ukiaɔaqtemaudena
うき上って来てしまうの でな。

M hoN:
ふん。

W torerukota torerukedomo tema: kakaqte
とれることは とれるけれど 手間が かかって

sjo:ɔa næ:
しかたが ない。

M ho:da doeræ:moN dekasana kanwa (笑) are mata
そうだ、 大きなものを 作らないかん。 あれは また

cuwæ:de suqkokenwana nakanaka
強いので すけんわな、 なかなか。

W suqkokinuky:
すきにくい。

M ho:ɔara muɔikokibano jaræ:jacu moqtekte
そうだろう 表こき歯の あらいのを もって行って

sjuqsjuqto mukasi jaqtakotoɔa aru
シュッシュッと 昔 やったことが ある。

W ho:da maŋɔaqte jatsudato e: wana
そうだ まんがと いうのだと いい わな。

M are sjo:toku taqtato jaqta hitowa e:wa
あれは 本当に 何度も やった 人は いい。

W ho:da
そうだ。

M N: iqpɛndakeja sokora jaqtamonowa jokeda
うん、 一ぺんかそこら やったものは かって(だめ)だ。

N: cjoqto tanbo koetonnowa jokeda
うん、すこし 田んぼが 肥えとるのは それだけ(だめ)だ。

W koetorunowa jokeda ade koetorunoN umæ:to
肥えてるのは かえて(だめ)だ。あれで 肥えとるのが うまいと

miete
みえて(うまいらしくて)……

M hN:
ふん。

W musin joke joruto miete
虫が よく よるらしくて……

M ho:da are wakundarana
そうだ。 あれ わくのだろうな。

W wakundawa na:
わくのだ なあ。

M aomusiga a: ano:
青虫が ああ… あの……

W nde miNna nisjæ: naq ima
それで 皆 2才に なっ… いま……

M ma: nisjæ: naq
もう さなぎに なっ……

W ma: nisjæ: naqcimatoru
もう さなぎに なってしまってる。

M ho:dara
そうだろう。

2. 昔 の 祭 り

録音日時 1967年8月28日

録音場所 愛知県小牧市大字藤島
字居屋敷 山田正子氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職 業)	(居 住 歴)
W	加藤 桑三郎	男	明治21年生	農 業	藤島のみ
M	加藤 桑三郎	〃	〃 23年生	〃	〃
Y	山田 達也(編者)	〃	大正14年生	教 員	藤島1才~8才, 名古屋9才~

解説：話は話し手の古老達の若き日の祭の回想である。

1と同じくYは聞き役。

W mukasi wasintora: no wakæ: zibunno omacurito
昔 私達の 若い 時分の お祭りと

ju:to nakanaka imato ciŋaŋte se:dæ:to
いうと なかなか いまと 違って, 盛大と

ju:daka gensjukuto ju:daka siranŋa siŋaku-
いうか 厳粛と いうか 知らないが, しんがく

teŋte namo
といて ねえ。

Y 「はあはあ」

W maehikara neqsinni sikiŋa aŋte na: siŋaku-
前日から 熱心に 式が あって ねえ。 しんがく

to ju:nowa are siŋakuto ju:ka siranto omo-
と いうのは, あれは しんがくと いうのか しらと 思

unda(ŋa) siŋaku siŋakuŋtiŋoŋtawana:
うのだ(が), しんがく, しんがくといった ねえ。

(so)de siNɔakukara hæ: doqkano sono zibun
 それで しんがくから もう どこかの、 その 頃

jomezisiteqte sisiɔa arijoqte na: hono
 よめ獅子といって 獅子が あったものだ ねえ。 その

kaɔuraɔ doqkade maqte ary:tekijoqta desu
 神楽を どこかで 舞って 歩いていったもの です。

Y 「お祭りは何日ですか。」

M mukasiwa haciɔacuno zju:rokunciga omacuride
 昔は 八月の 十六日が お祭りで

si...siNɔakuto ju:to N: hiɔasino omijano
 しんがくと いうと、 うん 東の お宮の

bondenjama ɔa honmacurini naqte hode akuru-
 梵天山(?) が 本祭りに なって、 それで 翌日、

hi ano go:no omijasanaɔa zju:rokunciga
 あの、 郷の お宮様が、 十六日が

omacuride sorede anta mukasiwa muko:no
 お祭りで、 それで あなた、 昔は むこうの

hiɔasino omijamade o:kina jatæ:o hi:teqte
 東の お宮まで 大きな 屋台を 引いていて、

hode muko:de sisi mawæ:te kite hode ma:
 それで 向うで、 獅子を 舞わせて きて、 それで

akuruhiwa mata go:no ho:no omijasanmade
 翌日は また 郷の ほうの お宮様まで

sisimæ:o jaqtari umao dæ:te hasirakæ:tari
 獅子舞を やったり、 馬を 出して 走らせたり

site omacurisawaɔio mukasiwa jariorimasita
 して、 お祭り騒ぎを、 昔は よくやりました。

ma: zuNni wakæ: sitoɔa himaN næ:de⁽⁹⁾
 もう 次第に 若い 人が 暇が なくて。

jomezisino ke:ko nanto ju:to tæ:kokara
 よめ獅子の ** (補注) 稽古 と いうと、 大鼓から、

huekara utautæ:kara minna (mma:e) naŋæ:
笛から、 歌い手から、 皆 (まえから) 長い

æ:da ke:ko site omacuridakede jarudakeno
間 稽古 をして。 お祭りに やるだけのことだ

kotode ma: imano wakæ:sjuwa nakanaka isoda-
のに。 もう いまの 若い人達は なかなか 忙

site sonna kotoa dekimasende koroqto sutaq-
しくて そんな ことは 出来ませんので すっかり すたっ

temæ:masita
てしまいました。

W hora mukasiwa omacuritju:to gensjukude
そりゃ 昔は お祭りというと 厳粛で、

wakarentju:ŋa omacurino sihæ:o sitoqtan(de)
わかれん(若連)というのが お祭りの 支配を していたもので、

hode wakarentju:to nizju:gomadeŋa wakaren
それで 若連というと……, (Mに対して) 25までが 若連

daqtakaka
だったのか?

M ho:da
そうだ。

W nizju:gomade horekara ninenŋa cju:ro:teqte
25までで、 それから 2年が 中老といって

namo cju:ro:sju: cju:ro:sju: tijoqtawa na:
ねえ 中老衆 中老衆 といったものだ ねえ。

nizju:rokuhicino hitoŋa cju:ro:sju: hode
26, 7の 人が 中老衆で、 それで

omacurito naruto minna wakæ: mondemo moq
お祭りと なると 皆 若い 者でも 紋……,

moncukibaoride na: hode sikio aŋete soreo
紋付羽織で ねえ、 それで 式を あげて、 それを、

sono siki-ŋa sono mukasino kotonara siqsona
その 式が その、 昔の ことで 質素な

to:ɕanno arja to:ɕandaqta na: 冬瓜の、(Mに対して)あれは 冬瓜 だった なあ。

M (笑)

W to:ɕanno siozuke de hode sjakeo omikio hiræ:-
冬瓜の 塩付で、 それで 酒を、 おみきを 配

te na: hode jadode hitomæ: maqte kondo
って ねえ、 それで 宿で 一舞い 舞って、 今度

bondensamæ: iqte siɕgakuno hidato bondensa-
ぼんでん様へ 行って、 しんがくの 日だと ぼんでん様

mæ: iqte mata sitomæ: maqte hode omijæ:
へ 行って、 また 一舞い 舞って、 それで お宮へ、

kite maqte horekara mata jadoto ko:ju huni
来て 舞って、 それから また 宿と、 こういう ふうに

sisimæ: o jarioqtaa sjo:ɕenkaɕuratio ju:
獅子舞いを やったものだ。 しょうでん神楽と いう

sisio jomezisino kaɕura o jarioqtaana hode
獅子を、 よめ獅子の 神楽を やったものだね。 それで

honmacurito naruto mata soreni iqso: kosite
本祭りとなつて、 なるど、 また それに さらに、

sono zibunwa kucjo:toia iesenandade arewa
その 時分は 区長とは 言わなかったから、 あれば

sjo:q sjo:jaka soncjo:(ka)
庄…、 庄屋か。 村長(か)。

M (ija: na:ntjo)qtæ: na:
(いやあ 何んとい) ったか なあ。

W imano kucju:sanno kawaridaa na: kono azano
今の 区長さんの 代りだ ねえ。 この 字の

simario sitoru sitono uci: dæ:icini iqte
締りを している 人の 家へ 第一に 行って

maqte sitomæ: maqte horekara omija: iqte
舞って、 一舞い 舞って、 それから お宮へ 行って

ma qte jadoni deru tokiwa muroNno koto hore-
 舞って、 宿(を?) 出る 時は 無論の こと それ

kara omijade ma qte okannnosamano maede ma q-
 から お宮で 舞って お観音様の 前で 舞っ

te na: kaðurazisiða cumari omacurino goci-
 て なあ。 神楽獅子が つまり お祭りの 御馳

so:daqta(Nda) gaqko: aðuruto suðuni so:ju:
 走だった(のだ)。 学校を 終えると 直に そういう

ke:koo saferarete hetanaðara maqta kotoo
 稽古を させられて 下手ながら 舞った ことの

oboEN aruða
 覚えが ある。

Y 「何か面白かったことありませんか。」

M ho:desu na: nakanaka omosiroe:ðoto næ: sono
 そうです ねえ。 なかなか 面白いところで なく、 その

curæ:me site oboENnaranaNdade na naðai aida
 つらい目を して 覚えなければならなかったので ね。 長い 間、

tæ:kowa tæ:kono sen sENSE: tanONde ary:te
 大鼓は 大鼓の 先…、 先生を 頼んで あるき、

hONde utautæ:wa utautæ:no tokode jadoo
 それで 歌い手は 歌い手の 所で、 宿を

ikuc nanðENkade karitena hode ke:ko sita
 いく…、 なん軒かで 借りてね、 それで 稽古を した

aðeku omacurino jo:sariwa mata jadode muka-
 うえ、 お祭りの 夜は、 また、 宿で 昔

sino kotonara sibæ:o takunde siq sisisibæ:-
 の ことで 芝居を 計画して し…、 獅子芝居

teqte sisisio⁽¹⁰⁾ onnajakuwa sisiða kabutoo kabu-
 といって、 獅子を、 女役は 獅子が 頭(かしら)を かぶ

qte onnajaku jaqte æ:mæ:de mukasiwa sibæ:o
 って、 女役 やって 相舞いで、 昔は、 芝居を

j a r i o q t a d e s u w a n a e : 昔の桑畑の跡です。
 やったものですよ。 ええ。

注

1. 昔といま

- (1) [p. 9] 曾野は藤島部落のとなりであるが、行政的には丹羽郡岩倉町に属する。
- (2) [p.16] かいこを飼う台。
- (3) [p.16] 夜、桑をやること。
- (4) [p.16] 次にやる分の桑。
- (5) [p.18] 「税金がかかる」の意か。
- (6) [p.20] 「おばあさんがいないとそうはいかない」の意。
- (7) [p.22] 耕作の道具。
- (8) [p.22] 縄をつくるわらをすく道具。

2. 昔の祭り

- (9) [p.25] ここに「いまはだめになったが昔は」の意が略されている。
- (10) [p.28] sisio 以下 æ : m æ : d e までは「獅子舞をやりました。女役は、獅子役が獅子のかしらをかぶって、女役になり、二人舞いで」の意。

(補注)

1. 昔といま

- * (p.21) はまき 稲につく青い、蚕を小さくしたような虫。稲の葉を食う。この虫は糸を出して、稲の葉を何枚か巻き合わせて巣を作る。なお、この虫は稲が肥えているときによく生ずる。

** (p.21) …… s u e d e k o e t o q t a r a m o : h i q p a q t e m a q t a
 すえて 肥えていたら もう 引張ってしまった。

これは、稲の成育時の終りに稲が肥えていたらはまきが生じて稲の葉と葉とを巣をつくるために引張り合ってしまった という意味である。

*** (p.22) i je: zuqto ukiapaqtemaudena

上へ ずっと うき上ってしまうでな。

上へずっと梳けてうき上ってしまうでとりやすいの意。

2. 昔の祭り

*(p.25) 屋台 山車のこと。

** (p.25) よめ獅子 女獅子のかしらをかぶって、大鼓、笛なぞにあわせやる舞い。踊りの所作がやわらかいとのこと。

*** (p.28) 獅子芝居 二、三人ほどで行う素朴な、所作を中心にした芝居。主なる女役が女獅子のかしらをつけて踊る。主な出し物は阿波の鳴渡、忠臣蔵の三段目、阿漕の平次なぞであるとのこと。なお、阿波の鳴渡ではお弓が、三段目では、お軽がかしらをかぶる。p.28の下から2行は、女役が女獅子のかしらをかぶって二人舞いを舞う芝居をやったという意。

非 売 品

1968 年 11 月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町